



事務



主事

岸 宏樹

Kishi Kouki

生活環境部 緑豊かな自然課
平成 29 年度採用

ある一日のスケジュール

- 8 : 30 勤務開始、メール確認
- 9 : 00 補助金の実績報告内容の確認
- 9 : 30 愛鳥週間ポスターコンクール結果通知の作成、課内伺い作成
- 10 : 30 許認可手続きの課内伺い作成
- 11 : 30 午後の現地確認の資料準備
- 12 : 00 昼休憩
- 13 : 00 久松山鳥獣保護区の境界の現地確認作業
- 16 : 00 現地確認の報告書作成
- 18 : 00 退庁
- 19 : 00 テレビを見ながら一日の疲れを癒す

●現在の仕事内容

主には鳥獣保護法に関する許認可事務、狩猟免許に関する事務、そして野生動物ふれあい推進事業に関する小・中・高校生向けのコンクールを開催し、児童や生徒に地域の生物多様性や自然環境の保全に係る理解と関心を深めてもらうための事業も担当しています。

●仕事のやりがい

県職員は直接県民の方と接する機会は少ないかもしれませんが、市町村と協力して進める業務も多く、全体的な視点に立てば、自身の仕事が地元である鳥取県や県民の方々への支援に繋がっていることにやりがいを感じています。特に現在は、自然保護に関わる分野の業務にあたっていますので、鳥取県の魅力の1つでもある豊かな自然を守る仕事に携われていることもやりがいに感じています。

●入庁して驚いたこと

入庁した当初は、1年目からあらゆる業務に携わることができたので、新人ながらこんなに多くの業務を任せてもらえるのかという驚きがあったことをよく覚えています。

また、現在の仕事では、事務職として入庁した私でも現場に出ることもあり、本当に業務が幅広いことを実感しました。事務職として現場での業務は想像していなかったので驚きもありましたが、貴重な経験を積むことができていますので日々興味深く業務にあたっています。

●県職員を目指す人へメッセージ

県職員の仕事は非常に幅広い分野を扱っているので大変なところもありますが、自分が想像していなかった業務に携わることができる興味深い仕事です。公務員と聞くと日々同じ仕事をしていると思う方もおられるかもしれませんが、鳥取県は日々業務改善に取り組んでいて、若手職員の意見もどんどん反映される環境です。今は新型コロナウイルス感染症が流行していますが、鳥取県のために鳥取県からコロナに打ち克つ仕事を皆さんと一緒にできる日を楽しみにしています！

社会福祉



児童指導員

中島 萌々子

Nakashima Momoko

子育て・人材局 米子児童相談所
令和元年度採用

ある一日のスケジュール

- 8 : 30 勤務開始
- 8 : 40 引継ぎ(宿直職員より)
- 9 : 00 日課の確認など
- 10 : 00 学習支援
- 12 : 00 昼食共食
- 13 : 00 休憩
- 14 : 00 活動時間(運動など)
- 15 : 00 児童と掃除、事務作業等
- 16 : 00 学習支援、余暇活動の見守り
- 17 : 00 引継ぎ(宿直職員へ)、事務作業(児童の記録など)
- 18 : 00 退庁

●現在の仕事内容

虐待や非行、家庭の事情などによって一時保護された児童の生活全般の支援・指導、学習支援、行動観察を行っています。そのほか、運動や余暇活動など、一人一人に合わせた活動を通して、子どもたちが安心して生活を送ることができるような環境を整えています。

●仕事のやりがい

様々な環境の中で育ってきた子どもたちにとって、安心感を提供することは簡単ではありません。日々、試行錯誤しながら子どもたちと向き合い、できなかったことができるようになった時や笑顔が見られた時、ありがとうと言われた時は嬉しい気持ちになり、大きなやりがいを感じるとともに、子どもたちのために「もっと頑張ろう!」とやる気も沸きます。

人の人生に踏み込む仕事であり、責任は大きいですが、「信じてくれる大人がいること」、「あなたは誰かの大切な人であること」を子どもたちへ直接伝えていけることがこの仕事の魅力ではないでしょうか。子どもたちが大人になってからも、「そういえば中島さんって人がおったなあ…」と覚えていてくれたらとても嬉しいですね。

●心掛けていること

一時保護の理由は児童一人一人異なるため、一時保護に至った経緯を理解し、子どもと接する上での注意点を職員間で密に情報共有しています。また、子どもの言動に関して、良いところは褒め、良くないところは怒らずに正しい方法を教え、それができたら褒めるという関わり方を心掛けています。子どもから、私からの働きかけに拒否反応が返ってくるとつらいこともありますが、そうした言動に振り回されず、一人の大人として毅然とした態度を取ることも心掛けています。

●県職員を目指す人へメッセージ

児童相談所をはじめとした社会福祉職の仕事は、対人業務が中心となるため、とてもエネルギーを使いますが、社会の中で重要な役割を担っています。私自身、知識不足と経験不足で悩むこともありますが、上司や先輩職員が助けてくださいます。また、県職員共通の研修だけでなく、福祉職独自の研修も色々あり、手厚く育ててもらっていると感じています。鳥取県が好きなら、福祉に携わりたい方、ぜひ一緒に働きましょう！

土木



土木技師

森 啓介

Mori Keisuke

中部総合事務所 県土整備局 道路都市課
平成 30 年度採用

ある一日のスケジュール

- 8 : 30 勤務開始、メール等チェック
- 9 : 00 デスクにて設計書作成、設計コンサルタントとの協議
- 12 : 00 昼休憩(朝注文しておいた弁当を食べます)
- 13 : 00 現場に出向き工事の進捗確認、協議打合せ
- 16 : 00 事務所に戻り、業者さんから受け取った資料の確認・整理
- 17 : 15 勤務終了
- 17 : 30 退庁
- 18 : 00 趣味の時間(漫画、ゲームなど家でまったり)

●現在の仕事内容

主な仕事として、自動車専用道路である国道313号の倉吉道路・倉吉関金道路の開通整備に携わっています。担当現場での監督業務や、事務所内での設計コンサルタントとの設計協議及び工事発注のための設計書の作成を行っています。事業費も数十億円の大規模工事であり、Bigな仕事ができモチベーションが上がります！

●仕事のやりがい

まず、出身地である鳥取県に貢献できることがこの仕事の魅力の一つです。仕事の結果が地図に残ることもあるのでとてもやりがいがあります。

また、県職員は県内各地に異動する可能性がありますが、異動により様々な職員と関わりが持てることや、県内各地で勤務することで各地の知らなかったお祭りや食べ物といった文化に触れることができる点も良いところだと思います。私は県東部出身ですが、プライベートでは県中部名物の牛骨ラーメンのお店を現在開拓中です！

●鳥取県職員を志望した理由

自身が生まれ育った鳥取県に貢献したいと思っていて、その中で公共事業に携わり、交通網の発達や河川整備などといった面から住民の生活をより便利で安心なものに向上させることができるという点に魅力を感じて、県の土木職を志望しました。実際に工事の完成物を見ると、県民生活向上に貢献できていると実感できます。

●県職員を目指す人へメッセージ

鳥取県職員の一歩の魅力は、何となく人との繋がりにあると思います。職場の同僚や、地域住民の方々、関係業者の方々、多様な職種同期や他部署の職員など、様々な人と繋がることができ、自分の見識をどんどん深めていける場所です。人と関わることが好きな方、就職を機に自分の世界を広げたいと思っている方は、ぜひ鳥取県職員へ！

獣医師



衛生技師

稲垣 文弥

Inagaki Fumiya

生活環境部 食肉衛生検査所
令和2年度採用

ある一日のスケジュール

8 : 30	勤務開始
8 : 45	豚のと畜検査
11 : 30	データ入力
12 : 00	昼休憩
13 : 00	牛のと畜検査
15 : 30	ふき取り検査
17 : 30	退庁

●県職員を目指す人へメッセージ

獣医師といったら多くの方が小動物を助ける動物病院の獣医師をイメージし、それを目指して獣医学部に入る方が多いかもしれませんが、県職員の獣医師は全く違います。牛や豚の病気の有無を判断する検査を行い、消費者に安心・安全に食を届ける役割を担っています。人々の食生活に密接にかかわっていることを日々実感できる、県職員の獣医師としてしかできない仕事です。ぜひ一度、興味を持っていただけたら幸いです。

●現在の仕事内容

食肉衛生検査所では、日々食肉となる家畜に病気がないかどうか判断すると畜検査を行っており、肉眼所見のみでは判定できない場合には試験室で精密検査も行っています。また衛生指導のため枝肉のふき取り検査を定期的に行っています。ほかにも食肉衛生のための調査研究も行っています。

●仕事のやりがい

と畜検査は限られた時間の中で担当の検査を行うので、短い時間で牛や豚の病気の有無を判断することが求められます。迅速かつ的確に病気を発見する力は大学の獣医学部で培ってきたもので、それをまさに生かすことができると日々実感できるところにやりがいを感じています。また、スーパーに行くとき、目に見えて人々の食生活に関わっていることを実感でき、そういうことなどもやりがいに繋がっていますね。

●県職員を志望した理由

もともとは動物病院の獣医師を目指して獣医学部に進みましたが、大学の研修で食肉衛生検査所を見学する機会があり、そこで獣医師がと畜検査を行い、消費者に安心・安全に食を届ける仕事に携わっている様子を見て、獣医師でもこんな仕事に携わることができるんだと大きな衝撃を受けました。そこから、小動物を助ける獣医師から、消費者に安心・安全に食を届ける仕事に携わりたいという思いに変わり、地元である鳥取県職員を目指しました。

建築



建築技師

浦田 麻紀子

Urata Makiko

西部総合事務所 生活環境局 建築住宅課
令和2年度採用

ある一日のスケジュール

8 : 30	勤務開始
9 : 00	現場立会
11 : 00	工事関係書類のチェック
12 : 00	昼休憩
13 : 30	施工業者と打ち合わせ
15 : 00	工事関係書類の処理
17 : 40	退庁

●県職員を目指す人へメッセージ

私はまだ東西部の宮繕担当しか経験がありませんが、建築基準法に関する業務や景観・まちづくりに関する事など、幅広い分野から鳥取県の建築に関わることができ、また、幅広い分野から、自分の「これだ!」と思うものを見つけることができる魅力的な仕事だと思っています。皆さんと一緒に働くことができることを楽しみにしております!

●現在の仕事内容

県有施設の建築工事の設計・監理に関する業務に携わっています。今までに、県立学校のトイレの洋式化や、県警駐在所の新築工事、大山山域の避難小屋である駒鳥小屋の改修工事を担当しました。担当する現場の工事発注から完成引渡しまでの間、工事関係者等との様々な調整を行います。調整内容は現場の施工に関する事や工事の進捗管理など多岐にわたり、幅広い知識や調整力が必要となります。

●仕事のやりがい

工事が終わった時に施工者から、「楽しい現場だったなあ」とか、「やりがいのある工事だったよ」と言っていた時はとても嬉しかったです。自分は実際に造る立場ではありませんが、現在携わらせていただいている業務は現場に近く、実際の施工風景や施設利用の様子が見えやすい環境です。分からないことも多いですが、現場には経験豊富な建築のプロが沢山おられて、色んなことを学ぶことができます。教えてもらったことは後々現場へ返していただけるようにと思いながら日々働いています。

●心掛けていること

出来るだけ現場に出向くことを心掛けています。まだ知識が浅いため、電話で聞くだけであったりデスクで考えるだけではわからないことも多いですが、一目見ることで解決することもあります。また、実物を直に見ると、「ここまでできているんだ!」とやる気も沸きます。ただ、庁内での事務仕事と両立しなければならぬので、何をどう確認するかしっかり準備して、効率よく現場を確認することについても心掛けています。

保育士



保育士

落合 佑樹

Ochiai Yuuki

福祉保健部 皆成学園
平成28年度採用

ある一日のスケジュール

8 : 30	勤務開始
8 : 40	学校送迎・学校引継ぎ
9 : 30	ハウスキーピング、事務作業、実習付き添い
12 : 00	休憩
13 : 00	会議、通院付き添い
15 : 00	学校迎え、児童支援
17 : 00	記録作成
17 : 30	退庁

●県職員を目指す人へメッセージ

1日を通して児童と関わることができるのが大きな魅力です。日々の小さな成長を見守り、支えていくことができます。元気いっぱい活動している児童たちを支えていく仲間が今後も増えることを願っています。ぜひ一緒に働きましょう。

●現在の仕事内容

県立皆成学園の保育士として、中・軽度の知的障がいのある児童の生活支援業務を日々行っています。個人の特性に応じて支援計画を立案、作成し、それを基に支援にあたっています。

●仕事のやりがい

児童の成長を感じられることがこの仕事のやりがいだと思います。できることが増えたり成長したことを一緒に喜んだりする瞬間が多くあります。例えば挨拶ができなかった児童が自発的に挨拶できるようになったり、買い物計画を立てて一人で買い物に出かけられるようになったりそれぞれ児童が日々ゆるやかに成長しています。

また、皆成学園の保育士はローテーション勤務のため、多くの職員がいます。料理が得意な人や絵を描くことが得意な職員など様々な特技があり児童支援に対して多様な考え方があります。そのため、自分が持っていないスキルや考え方を獲得することができます。日々成長できる場所この仕事のやりがいです。

●心掛けていること

皆成学園で暮らす児童にとって皆成学園は家庭に代わり生活をする場です。学園ではみんなと一緒に生活しながら学校に通ったり実習に行ったりしながら過ごしています。児童はそこにいることに挑戦します。うまくできたりできなかったり、困ったり悩んだり様々な気持ちを抱えて帰ってきます。児童の気持ちがリラックスしたり安心したりできることを意識しています。

そして、児童の命を守っているという意識もやはり強いです。体調管理や服薬管理などは正確に把握して支援をしています。てんかん発作などの持病のある児童もいるため、緊急時の対応はしっかりと頭に入れています。

また、皆成学園は児童の施設のため、将来児童が生活する場所は様々です。児童は調理や洗濯の経験を積み重ねたり、実習を通して仕事について学んだりしています。退所後の生活の場は様々ですが、児童ひとりひとりが充実した人生を送ってほしいと思っています。

中堅職員へのインタビュー

事務



係長
武田 尚也
Taketa Naoya

福祉保健部 健康医療局 医療政策課
平成 22 年度採用

これまでの経歴

平成 22 年 4 月～総務部 人権局 人権・同和対策課
平成 24 年 4 月～人事委員会事務局 任用課
平成 27 年 4 月～地域振興部 地域振興課
平成 30 年 2 月～総務部 財政課
令和 2 年 4 月～現所属

ある一日のスケジュール

8 : 30 始業、メールチェック
9 : 00 審議会委員への支払い手続き
10 : 00 関連業務の起案の確認など
12 : 00 昼休憩
13 : 00 修学資金の免除等の手続、医療法人からの届出内容確認など
18 : 00 退庁

●現在の仕事内容

医療政策課の医療政策担当というところで、地域医療介護総合確保基金という基金のとりまとめや理学療法士の修学資金の貸付や返還事務、ほかにも医療法人の許可申請の受付・確認事務や県の地域医療対策協議会の開催などの業務を行っています。

●仕事のやりがい

そもそも県庁を志した理由として、自分は鳥取県民なのに、鳥取県民のことをあまり知らないということがあって、一番手っ取り早く勉強できる、仕事として経験したあとによく知れるところはどこだろうと考えたときに、鳥取県庁だったということがありました。県内のいろいろな所に行ったり、県庁の業務でいろいろな業務を試してみたいというのはもともとあったので、そういう意味でいうと、以前いた課になりますが、地域振興課で県内の市町村を回ったり、財政課で県の財政状況やどういってお金の使い方しているか、また各部局の事業の内容をざっくり知ることができたのは結構自分の中では楽しかったなと思っていて、これがやりがいと言われると違うかもしれませんが、個人的に一つの仕事の楽しみ方というか、仕事の喜びの見つけ方というような部分では結構構築されてきたかなと思います。

●これまでの仕事で印象に残った出来事

以前、地域振興課にいたときには、財政担当ということで、市町村財政の助言などをしていたので、結構市町村の方としゃべったりだとか、あと実際に現地に行ったりとかできたので、個人的にはそういう業務がやりたいなと思っていたところだったので楽しかったなと思います。実際に市町村のこともそうだし、財政のこともよく知れて、勉強になったなと思いました。あと、財政課にいたときは、県の予算というのがこんなに幅広くてこんなにやるのがたくさんあるんだということを思い知らされて、すごく印象的でした。実際予算を扱う仕事というのはこれまでほとんどなかったので大変でしたが、周りの人がベテランの人ばかりで助けてくれたので何とかできました。

●心掛けていること

自分の中の整理の方法というか、気持ちの切り替え方なんですけど、これまでしてきた業務も含めて、今の業務はあまり明確なゴールがないというか、イベントやりましたというような企画系の業務ではないので、これまではなんとなく「今日はできたな」、「今日はできなかったな」という感じで帰っていたんですけど、あまりできなかったことを「あーできなかったな」と思いながら寝ると、「まあ明日やろうか」というのでは、何となく心持ちは違うので、自分の中での締切りを1日単位から3日くらいの単位で見えるようになりました。すごく几帳面な人がいたら、1週間くらいのスパンで、まあまあできたかなとか、ちょっと今週ダメだったかなとか、そういうイメージでとらえてもいいのかなって思ったりします。

●県職員を目指す人へメッセージ

たぶん、みなさんが思われている行政の職員の仕事というのは、窓口の対応をされている市町村の職員のイメージのことが多いかなと思うんですけど、県庁職員は市町村を支える役割が多いということで、行政の裏側というか、より深いところを見られるところが魅力かなと思っています。あと、県庁というところは、各地域に総合事務所がありますし、いろんなところに行けたり、いろんな仕事ができたりするので、幅広く仕事をやってみたいという方には非常におすすめの仕事だと思っています。もし、県庁職員の受験を考えている方は試験を受けてみていただけたらと思いますので、よろしくをお願いします！

事務



係長
土井 望夏子
Doi Mikako

商工労働部 立地戦略課
平成 22 年度採用

これまでの経歴

平成 22 年 4 月～統轄監 広報課
平成 25 年 4 月～福祉保健部 子育て王国推進局 子育て応援課
平成 28 年 4 月～鳥根県へ派遣
(鳥根県商工労働部雇用政策課)
平成 30 年 4 月～現所属

ある一日のスケジュール

8 : 30 勤務開始、メールチェック・返信
10 : 00 補助金申請書類のチェック
12 : 00 昼休憩
13 : 00 企業訪問
15 : 00 企業訪問記録の作成
16 : 00 協議用資料の作成、課長と協議
18 : 00 退庁

●現在の仕事内容

鳥取県内の雇用の増加や地域経済の活性化につなげるため、製造設備や建物などの新増設を検討している県内企業へ、補助金のほか活用できる支援制度の説明や紹介をしています。その他にも市町村が行う企業誘致のためのインフラ整備に関する補助金の事務を行っています。

●職場の雰囲気

商工労働部には民間企業や金融機関等で勤務経験のある方や商工労働行政に長年に渡り携わっている職員も多く、知識や経験の豊富な方がたくさんおられます。また、いろんな人が自分の意見を言いやすく、困ったときには、相談のしやすい雰囲気です。

●仕事のやりがい

市町村と違って直接住民の方と接する機会は少ないですが、鳥取県という広いエリアでより大きなフィールドで仕事ができることです。現在の補助金の業務では、実際に企業を訪問し、具体的な設備投資の計画を確認した後、補助金の申請に必要な計画書の作成などについて、メールや電話で何度もやりとりをしようやく支援を決定するのですが、そうして支援した企業からあの設備を入れることが出来てよかったと言われた時は嬉しいですし、間接的にはありますが企業に勤めておられる方の役に立っていると実感します。それから、広報課で鳥取県の広報番組を担当していた時は、自身が携わった仕事が目に見える形で県民の皆さんに届けられるのを見て、嬉しさと達成感を感じました。

●これまでの仕事で印象に残った出来事

2年間の鳥根県庁への派遣です。同じ「県」でも業務の進め方や取組の考え方に違いがあることに驚きました。鳥取県は人口も面積も小規模ということもあり、様々な地域課題や県民からの要望に、よりスピード感を持って対応していると改めて感じると同時に、組織での役割分担の考え方や仕事の進め方など鳥根県庁から学ぶことも多く、外から鳥根県庁を見るという点でも非常に良い経験になりました。

●これまでの県職員生活を振り返って

通常、2～3年で職場を異動するので、異動したばかりの頃は大変と思うことも多いですが、他の職員もそのことは分かっているので、親切に教えてもらったり、困りごとがあった場合は解決に向けて一緒に考えてもらえます。どれだけ仕事が大変でも一緒に働く職員とのいい関係が築ければもうひと踏ん張り頑張りましょう！という気持ちになります。私自身周りの方には本当に恵まれており、このことが県職員を続けてこられた理由だと思ひますし、そのためにも職場の皆さんとの日頃のコミュニケーションは大切にしたいと思っています。

●県職員を目指す人へメッセージ

県職員の仕事は、先進的な取組みも多く、携わる業務は幅広いです。県民の方、関係者、他の所属の職員などいろいろな人と関わりながら、異動の度に新しい知識を身につけ、日々成長できますし、私のように鳥取県以外の自治体への出向や国の省庁、海外派遣にチャレンジできる環境も整っており、いろんな仕事をしてみたい人にはとても向いている職場だと思います。こんな支援したらどうかと思ったら、それをきっかけに仕組みづくりや予算化をして、実際に支援に繋がったり、自分のアイデアを実際に事業化しやすいもの仕事の魅力だと思います。是非、県職員として、いろんな仕事にチャレンジしてください！

農業



係長

金川 健祐

Kanagawa Kensuke

農林水産部 農業振興戦略監 とっとり農業戦略課
平成 18 年度採用

これまでの経歴

平成 18 年 4 月～農林水産部 農業試験場
平成 21 年 4 月～農林水産部 経営支援課
平成 23 年 7 月～東部総合事務所 農林局 鳥取農業改良普及所
平成 25 年 4 月～西部総合事務所 日野振興センター 日野農業改良普及所
平成 29 年 4 月～現所属

ある一日のスケジュール

8 : 30	勤務開始
9 : 00	予算書作成
11 : 00	調査報告書の提出
12 : 00	昼休憩
13 : 00	団体指導業務 (団体会議への出席)
15 : 00	会議準備 (資料作成、印刷)
17 : 30	退庁
20 : 00	家族団らんの時間

●現在の仕事内容

農林水産業における防災業務を担当しています。自然災害発生前の注意喚起や、発生後の迅速な被害調査を行い、速やかな対策の実施、復旧へと繋げていきます。農地や林道、漁業施設等の基盤が被害を受けると、生産者等の翌年の生活に大きく影響するため、迅速性が重要な業務です。また、団体指導、農業と福祉の連携、国際貿易に関することなど、多岐にわたる業務を担当しています。

●仕事のやりがい

県職員を目指したきっかけが、県外の大学から地元へ帰省する度に地元の過疎化が進んでいて寂しいと感じていて、子どもたちが地元に残りたい、帰りたいと思う地域にしたい、仕事を通じてそれができたらいいなと思ったことでした。農林水産業が元気になると地域も元気になります。県職員としてそこに携わることができていることに、すごくやりがいを感じています。

●これまでの仕事で印象に残った出来事

中山間地の現場で仕事をしていた頃、すごく親しくしていた大規模農家の方が突然亡くなられてしまいました。それを悲しむ間もなく、その方の農地や農機具をどう引き継ぐかという問題に直面することになりました。次の職場へ異動するまで1年間、その問題にただただ一生懸命、必死に向かって、一応の方向性は出ましたが、それが正解だったのかどうかは分かりません。今後こういうことが増えていくんだろう、自分ももっと実力を身に付けていかなきゃなと思った出来事でした。突然のことでもとても印象に残っています。

●これまでの県職員生活を振り返って

仕事をする上で一番大事にしているのは、隠さないこと。隠して良いことって今までなかったなあと。それは仕事を抱え込まないことにも繋がるんですけど、そう考えると、相談しやすい環境は自分で作るものだなあと感じますよね。

あと、様々な業務を経験することは、自分の知らなかった世界に挑戦できて、大変ありがたいことだと思えます。今担当している防災の業務も、農業だけでなく林業、水産業にも関わらる中で、目から鱗が落ちる経験もして、とても勉強になったし視野も広がりました。

自分は鳥取県で暮らしたいという思いは強かったですが、是非この仕事をしたいという強いこだわりがなかったので、自然体でここまで続けてこれたのかなと思います。それから、自分の場合は、仕事と家庭、両方のバランスがとれていることも続けてこれた秘訣だと思います。バランスがとれて、仕事も家庭もちゃんとできるということが最近見えてきました。

●県職員を目指す人へメッセージ

これまで15年間、研究、現場での普及、行政などいろいろな仕事をしてきましたが、どの仕事にしても神髄は同じで、やるべきことは一緒だなと感じています。

第1次産業は元気がないといわれることもありますが、生産者の皆さんはすごく真剣に生きて、生活しておられます。県職員の仕事は、そういう方々と直接接して関わって、寄り添っていくことで、自分を成長させることもできる仕事だと思っています。皆さんも、本気で仕事に取り組んでいけば、きっとそれが見えてくると思います。

ぜひ、県職員として一緒に仕事をしましょう！

土木



係長

河村 隆輔

Kawamura Ryuusuke

県土整備部 八頭県土整備事務所 道路整備課
平成 15 年度採用

これまでの経歴

平成 15 年 4 月～県土整備部 姫路鳥取線用地事務所
平成 18 年 4 月～県土整備部 道路企画課
平成 19 年 4 月～中部総合事務所 県土整備局 道路都市課
平成 22 年 4 月～東部総合事務所 県土整備局 道路都市課
平成 25 年 4 月～県土整備部 鳥取空港管理事務所
平成 28 年 4 月～県土整備部 技術企画課
平成 2 年 4 月～現所属

ある一日のスケジュール

8 : 30	勤務開始 積算及び関係資料作成
12 : 00	昼休憩
13 : 00	現場確認、立会
16 : 00	書類確認、整理
18 : 00	退庁

●現在の仕事内容

県道改築事業など道路に関する公共土木工事を担当しています。具体的には工事の予定価格の積算(算出)や、発注した工事の監督業務などを行いますが、設計、用地買収、そのあとの工事開始から完了までの数年にわたる長いスパンの中で、着任している期間の工程を担当することになります。自分が重機を動かすわけではないですが、工事全体をグリップするのは県、担当者の自分ですので、やりがいとともに責任がある仕事です。

●仕事のやりがい

自分が直接機械を動かしたりして造ることはしないんですけど、ものができるがってそれが見える仕事ですので、やっぱりいろいろ苦労して発注にこぎつけ、そして完成したのを見たときというのは、やってきてよかったなあといい気持ちになります。計画から完成まではとても長いんですが、どうやったらよくなるかを考えて絵にできる、そして最終的にそれが形になるところが一番の魅力だと思っています。

計画や設計は建設関係コンサルタント、工事は建設業者さんをお願いしますが、計画から完成まで携わることができるのは職員だけです。

●これまでの仕事で印象に残った出来事

平成 20 年度に道路都市課の農道班というところにいたんですが、そのとき最初に任された仕事が谷渡りの大きな橋の新設工事でした。橋を支える 2 本の柱が高さ 40 m で、その大きな柱を乗せるための基礎として、直径 7.5 m、深さ 10 m の穴にコンクリートを流し込んでいくというものでしたが、当時からその規模の構造物はあまりない中で、工事を発注したり実際に現場に行って監督をしたのがとても印象に残っています。

とにかく規模が大きくて、基礎の入るところの硬さを計る試験でも、1 枚 800kg ある鉄板を 200 枚用意したりとか、後にも先にもこんなに大きな規模の工事をやったのはそのときだけです。

●本庁と地方機関(現場)との違いについて

本庁では、予算を扱ったり県議会への対応があったりすると、現場で大きな問題があった際などの協議に応じたりします。あとは、例えば工事を発注する際に必要となる県の技術基準を定めたりするような課などもあります。

地方機関では、基本的に工事を担当することとなります。お金をはじくところからはじまって工事を発注しますが、発注するだけで終わりではなく、地元の方や業者さんといろんなやりとりをしないと行けません。

一言えるのは、本庁で予算を要求する際は、現場の方で金額をはじくのですが、そのときに本庁側でそれが高いのか安いのか、いるのかいないのかといった判断はある程度現場を経験しないと分からないです。また、現場でトラブルがあった場合にそれをどう解決していくかといった場合でも、現場の経験がないと厳しい部分があります。

●県職員を目指す人へメッセージ

土木職は、学校でもいろいろ勉強して工学系の人が目指す人が多いと思うんですけど、それに限らず、「ものが造れる、ものができる」ということにはあこがれる人であればぜひ目指してほしいと思います。実際働いてみると、勉強してきたことだけではできないこともたくさんあるんで、入ってみていろいろ学んだり経験して世界が広がったりしますし、ほかにも国道は誰が管理しているのかなど、今まで知らなかった意外なことがたくさん知れて面白いと思います。みなさんと一緒に働ける日を楽しみにしています！